

盲ろう者が使う手話～触手話と弱視手話～

盲ろう者とは、有名なヘレン・ケラーのように、視覚と聴覚の両方に障害がある人たちのことです。日本では、約9千人の盲ろう者がいると推定されています（社会福祉法人 全国盲ろう者協会による）。

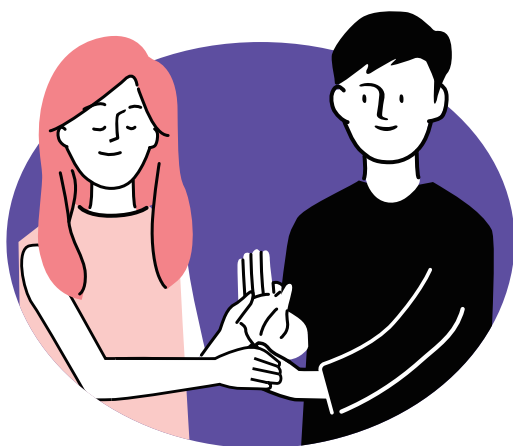
盲ろう者のコミュニケーション方法は、障害の程度や生育歴、他の障害との重複のしかたなどによって、指点字や手書き文字などさまざまです。

手話を読み取れる盲ろう者は、主に次の2つの方法を使って、コミュニケーションを交わしたり、通訳を受けたりします。



ヘレン・ケラー

資料写真提供：社会福祉法人日本ライトハウス



触手話（触読手話）

全盲ろう者の場合は、相手の手話が見えませんが、手話の形を手で触って読み取ります。話し手が盲ろう者の手指をもって、手話の単語に形作っていく方法もあります。

弱視手話（接近手話）

弱視ろう者の場合は、その盲ろう者の見え方に合わせて、少し離れて手話を読み取ったり、逆に接近して手話を読み取ったりします。通訳者はその盲ろう者の見える範囲内で手話を表す必要があります。